

〔付論〕韓国の二聖山城について

今年度の第13次調査で鞠智城跡より検出された八角形建物址のルーツは、韓国の「二聖山城」にあると思われる。そこで、県では古閑三博県議会議長を中心に、二聖山城視察メンバーを構成し韓国へ渡った。その結果は下記の通りである。

二 聖（イーソン）山 城 を 視 察 し て（踏査日：1992年3月25日）

二聖山城視察メンバー：古閑三博（県議会議長） 松見広海（議会事務局長）
島津義昭（文化課調査一係長） 大田幸博（文化課参事）

調査団は二聖山城を調査した（5次調査まで行われている）キム・ビョンモ漢陽大学教授と会い、教授から示唆を受けた上で、同大学院生の案内で山城を視察した。結果は下記の通りである。

- ① 二聖山城は6～9世紀代の包谷式山城とされるが、地形的に鞠智城の米原台地と極めて似通ったものがある。八角形を初めとする多角形建物の検出箇所は、鞠智城で云う内郭の土塁線（灰塚～佐官ドン）上に他ならない。
- ② 二聖山城の八角形は礎石建物である。構造的には中心部が四角形で、周辺が八角形となっている。鞠智城から検出された北側の八角形礎石建物は、今日、礎石が総て抜き取られて、中心部は円形状の窪地となっているが、建築当時は二聖山城形式であった可能性が濃い。
- ③ 二聖山城では八角形と九角形の建物がセット関係にあると考えられている。この事から鞠智城において南と北から検出された2棟の八角形建物も同様にセット関係にあるのではという推論が出てきた。
- ④ 二聖山城では九角形建物が天壇、八角形建物が地壇・社稷壇、十二角形建物が望楼と考えられている。
- ⑤ 二聖山城から、土馬・鉄馬（長方形礎石建物から出土）と仮面（池から出土）が出土している。この事は城内で祭祀が行われた事を意味する。土馬の埋納は雨乞いの意味があると考えられている。
- ⑥ 韓国の古代山城で、八角形建物と九角形建物がセット関係として見つかった例は2城に過ぎない。この二聖山城と、他方、雲住山城（周留城）〔忠清南道燕岐郡〕である。但し、雲住城の場合は踏査によって露呈状態にある礎石が確認された段階に留まる。
- ⑦ 二聖という地名は古代山城と密接な関係があるのではないと思われる。二聖山城は云うに及ばず、雲住山城の隣接地にも二聖山という地名がある。日本の例では大野城の大野山を俗

名で二聖山という。一方、二聖山と耳成山はハングルの発音では同音であるので、これらの事を含めて、鞠智城周辺の地名に二聖と耳成がないかどうかを洗い直す必要がある。山城の近くに住むとされている神の名(イッセイ・イッソン)に関係あるのかも知れない。(キム・ビヨンモ教授の見解と示唆)

二聖(イーソン)山城

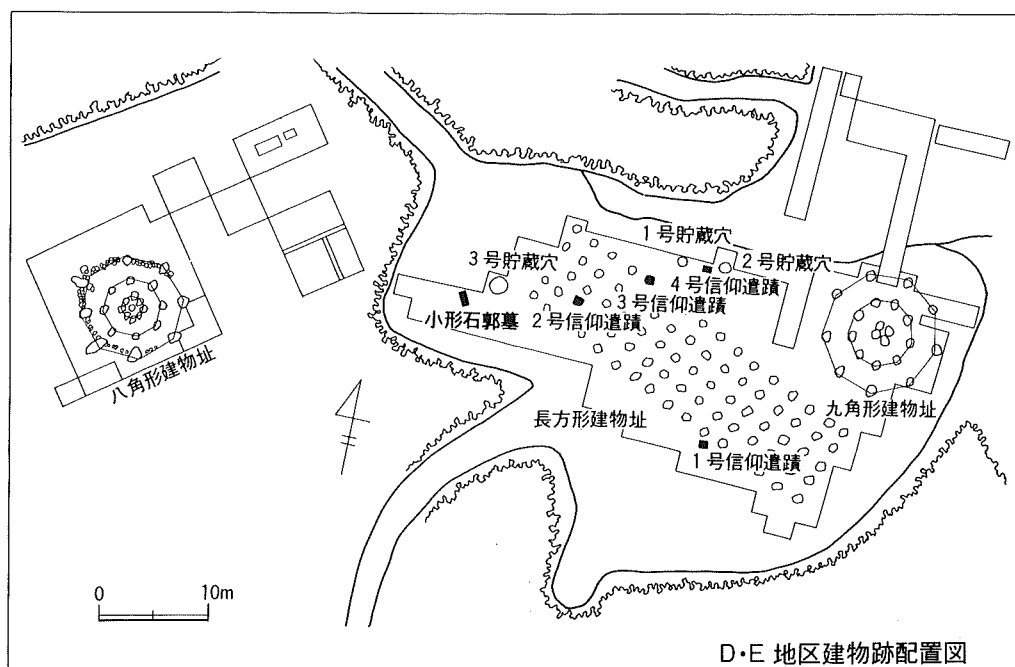
〔所在地〕 大韓民国京畿道河南市春宮洞36番地

海拔209.8mの二聖山に築城された包谷形の石築山城である。

発掘調査は百済都城の究明を目的にし、漢陽大学により、1986年を初めとして今までに5回行われている。

城の周囲は1.925km、城壁の高さ3～4m、城域155.025km²に達する。城内の構造物は4棟の長方形建物址を初めとし、九角形建物址と、八角形建物址の他、十二角形の建物址が発見されている。いずれも礎石建物址である。

城の年代は、6世紀の中葉に築城され、9世紀末まで使われている事がわかる。



〔漢陽大学校博物館叢書第5輯『二聖山城』1987〕

第49図 韓国 二聖山城 建物址配置図